

株主メモ

事業年度	1月1日～12月31日
定時株主総会	3月下旬開催
期末配当基準日	12月31日(中間配当金の支払いを行うときは6月30日)
単元株式数	100株
公告方法	電子公告(http://www.cac-holdings.com/) ただし、やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、 日本経済新聞に掲載いたします。
株主名簿管理人	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	〒100-8212 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料)

ホームページのご案内

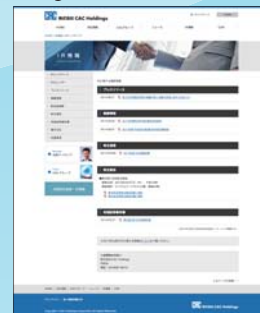
当社ホームページでは、最新のトピックスをはじめ、株主・投資家様向けに様々な情報をご案内しております。ぜひご利用ください。

<http://www.cac-holdings.com/>

Top Page



IR Page



株式会社 CAC Holdings

本社 〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町 24-1 TEL.03-6667-8001 (代表)

文字の読みやすさ(視認性)を高めたユニバーサルデザインフォントを使用し、よりわかりやすいレイアウトにしています。



CAC通信

Fiscal Year 2014

2014年12月期 中間報告書

2014.1.1→2014.6.30





ITサービスの堅調な需要を取り込みます。

代表取締役社長 酒匂 明彦

金融向け中心にITサービスが堅調、新規連結子会社の寄与もあり、増収増益となりました。

2014年度第2四半期(1~6月)は、医薬品開発支援を中核とするBPO/BTOサービスが収益面でやや低調でしたが、銀行や信託銀行など金融機関向けシステム構築が好調であるのに加えて、買収したAccel Frontline Limitedの新規連結も寄与したため、ITサービスが売上高、営業利益とも拡大しました。当期純利益は投資有価証券売却益により期初計画水準を大きく上回りましたが、これは下期に見込んだ売却が前倒しになったことによるものです。これらを踏まえ、中間配当金は、計画どおり1株につき16円とさせていただきます。

顧客企業のIT投資意欲は回復基調が続いており、下期につきましても、こうした需要を取り込むことにより、期初目標を確実に達成したいと考えています。同時に、

進展するグローバル化への対応やテクノロジー面での大きな潮流変化への適応を進めるなど、今後の成長軌道を確認なものにする取組みにも注力してまいります。

四半期連結業績概況(1~6月) (単位：百万円)

	当第2四半期(2014年度)	増減率(%)
受注高	24,047	19.8
売上高	24,599	19.5
営業利益	1,650	22.5
経常利益	1,526	5.0
四半期純利益	1,586	103.3

ITサービス市場の状況 - 受注環境は改善 -

国内市場は、2008年のリーマンショック以降、マイナス成長の年もあるなど停滞傾向が続きましたが、金融分野のIT投資増、マイナンバー制度の導入決定などにより、2013年の秋頃から受注環境は改善しています。ただし、エンジニアの不足感も生じていることから、人件費、外注費などコスト面上昇圧力があり、また、新興国のITサービス企業との競争も増えていることから、収益面で楽観できる状況にはありません。

ビッグデータ、IoT*(Internet of Things)といった新分野には企業の関心が高まっていますが、競争力や収益力の向上

に直結する製品やサービスは試行の段階にあり、本格的な市場形成はこれからと見られています。こうした状況に加えて、顧客企業のIT投資が海外シフトする傾向が続いていることから、中長期では、労働集約的でないビジネスモデルの確立やグローバルサポート体制の整備が、日本のITサービス企業にとって重要な課題となっています。

※IoT：情報通信機器だけでなく、様々な「モノ」に通信機能を持たせ、相互に通信させることなどによって新たな価値を生み出すという概念。

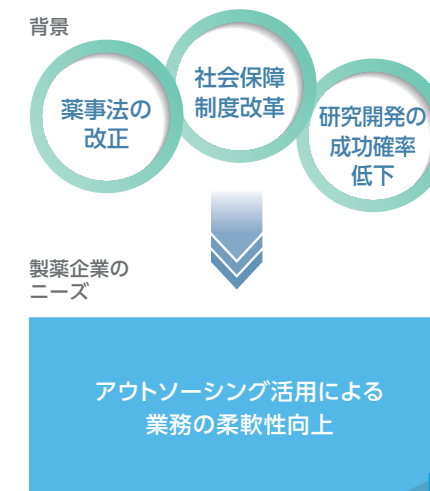


医薬品開発支援サービス市場の状況 - アウトソーシング需要は堅調 -

製薬企業は、社会保障制度改革の進行や研究開発の成功確率低下など、従来に比して厳しい経営環境下にあることから、アウトソーシングの活用による業務の柔軟性向上に積極的です。特に近年は、新薬開発は自社で行い、既存製品の適応症拡大(効能の追加)に伴う業務ではアウトソーシングを活用する傾向が強まっています。そのため、規制当局への申請や製造販売後業務の領域で需要が拡大しています。

こうした業務の受託にあたっては、既存の業務プロセスを効率化し、コストやスピードの面でメリットを生み出す必要

性が高まっており、IT活用力が差別化の武器として重要な要素となっています。また、近年、国内で業界再編が進展しているのに加えて、国際共同治験などグローバル対応の必要な場面で外資系企業との競争が増え、競争環境に変化が生じています。グローバル対応については、日系製薬企業向けは国内・海外を含む案件、外資系製薬企業向けはグローバルに進める案件の日本対応が中心ですが、いずれもニーズは増大しており、日系の医薬品開発支援サービス企業にとってグローバルサポート体制の整備が急がれる状況にあります。



❖ 長期発行体格付「BBB+(安定的)」を維持

当社は、第三者機関の客観的な審査を受けることにより、経営の透明性と財務の健全性を高めるとともに、資金調達手段の多様化を図るため、毎年、企業の包括的な債務返済能力を示す長期発行体格付を取得しています。本年4月から持株会社体制へと移行するにあたり、この組織再編によって当社の信用力が損なわれることがないかという観点から、日本格付研究所による見直し審査を受けました。その結果、前年と同様の「BBB+(安定的)」との評価(格付)を取得しました。当社では今後も、ステークホルダーの皆様の信頼、安心を担保する一助として、格付取得に取り組んでまいります。

※日本格付研究所プレスリリース
<http://www.jcr.co.jp/release/pdf/14d00011CH.pdf>

❖ CAC技術者執筆の『図解で学ぶ SEのための銀行三大業務入門』第2版を出版

CACは、銀行業務システムを特化分野のひとつにしており、その分野の社内向けテキストを全面的に修正・加筆して、『図解で学ぶ SEのための銀行三大業務入門』を金融財政事情研究会から2010年12月に出版しました。その後、好評を得て増刷を重ねてまいりましたが、今般、電子記録債権制度などの内容を追加し、システム面の記載も拡充したほか、全ページを精査して加筆修正を行い、さらに初版の読者から要望の多かった索引を設け、第2版として本年5月に刊行しました。顧客企業からもお褒めの言葉をいただくなどしており、銀行業務システム分野におけるCACのブランド・イメージ向上にも寄与すると考えています。



❖ クラウドサービス「C-nu@ge Enterprise Cloud+」拡販に注力

CACは、アマゾン社のクラウドサービスAmazon Web Services (AWS) に自社の監視・運用機能を加えて利便性を高めた企業向けIT基盤サービス「C-nu@ge Enterprise Cloud+」(シーニューアージュエンタープライズクラウドプラス)を提供しています。2012年のスタート時は、このサービスのみでの提供でしたが、その後、既存環境からAWS環境への移行サービス、クラウド上の仮想デスクトップであるAmazon WorkSpacesの構築・運用サービス、クラウド上のWebサイトをサイバー攻撃から防御するサービスなどを追加し、AWS活用による企業IT基盤としてトータルに提供しています。ご導入いただいたお客様からの好評価を得て、さらなる拡販に努めています。

ファイザー株式会社様事例
<http://www.cac.co.jp/product/ecplus/case/pfizer/pfizer.html>
 公益財団法人医療科学研究所様事例
<http://www.cac.co.jp/product/ecplus/case/iken/index.html>
 ディップ株式会社様事例
<http://www.cac.co.jp/product/ecplus/case/dip.html>



❖ ワークスタイル変革 EXPOに出展

本年7月16日(水)～18日(金)、東京ビッグサイトにて「第1回ワークスタイル変革EXPO」が開催されました。CACは、2011年からワークスタイル変革に取り組むとともに、そのノウハウをITソリューションとして体系化し、提供しています。7月16日には、テレワークに取り組む際の課題と効果を可視化する新サービス「フリキタステレワークコンサルテーション」をプレス発表し、仮想デスクトップソリューションなどとともに展示しました。イベント出展のほか、スペシャルWebサイトの開設なども行い、ワークスタイル変革の普及と自社ソリューションの拡販に努めています。

※ワークスタイル変革スペシャルサイト(CAC運営)
<http://www.frequentous.com/>

<参考>情報サービス産業協会 ユビキタスワークスタイル(働き方)変革実践ガイドライン
<http://www.jisa.or.jp/publication/tabid/272/pdid/25-J008/Default.aspx>



CAC Holdingsの格付

長期発行体格付 BBB+(トリプルBプラス)

■ 日本格付研究所の格付の等級

長期発行体格付

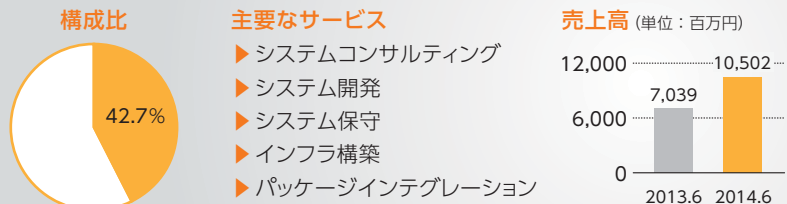


※AAからBまでの格付記号には同一等級内での相対的位置を示すものとして、(+)もしくは(-)の符号による区分があります。

サービス別・業種別の概況

サービス別売上高

システム構築サービス

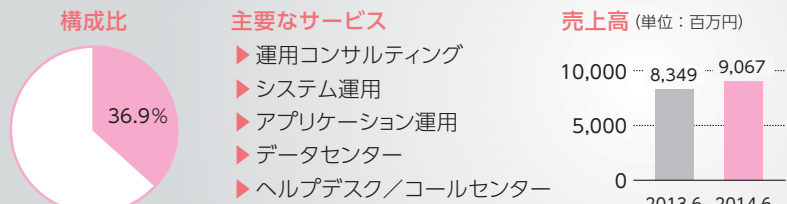


- 主要なサービス
- ▶ システムコンサルティング
 - ▶ システム開発
 - ▶ システム保守
 - ▶ インフラ構築
 - ▶ パッケージインテグレーション

ポイント

既存グループ会社が増収となったのに加え、新規連結も寄与したため、売上高は、前年同期比49.2%増加の105億2百万円となりました。また、営業利益は、前年同期比259.4%増加の8億20百万円となりました。

システム運用管理サービス

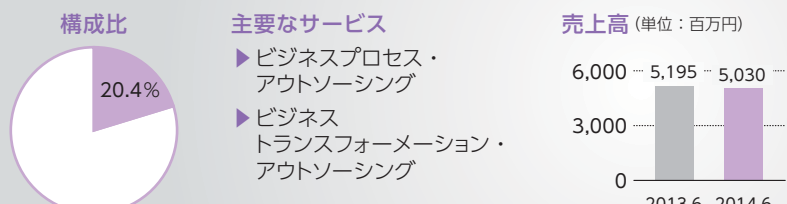


- 主要なサービス
- ▶ 運用コンサルティング
 - ▶ システム運用
 - ▶ アプリケーション運用
 - ▶ データセンター
 - ▶ ヘルプデスク/コールセンター

ポイント

前年のサーバーリプレース案件の反動減はあったものの、新規連結の寄与により、売上高は、前年同期比8.6%増加の90億67百万円となりました。また、営業利益は、前年同期比17.9%減少の2億83百万円となりました。

BPO/BTOサービス



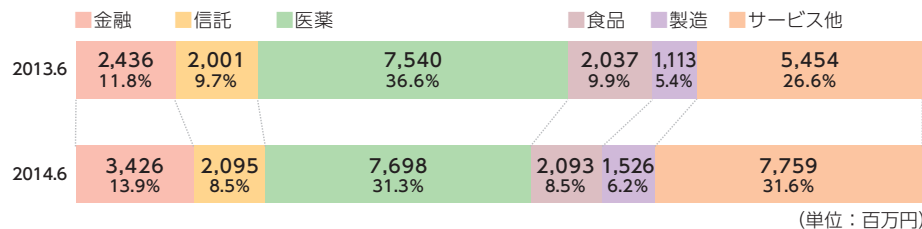
- 主要なサービス
- ▶ ビジネスプロセス・アウトソーシング
 - ▶ ビジネストランスフォーメーション・アウトソーシング

ポイント

医薬品開発支援サービスが、大型案件の縮小により減収減益となりました。このことが主因となって、売上高は、前年同期比3.2%減少の50億30百万円、営業利益は、前年同期比29.3%減少の5億47百万円となりました。

業種別売上高

顧客のIT投資意欲が回復している金融・信託向けが伸長。新規連結の寄与によりサービスその他も増加。



株式の状況・会社情報

株式の状況 (2014年6月30日現在)

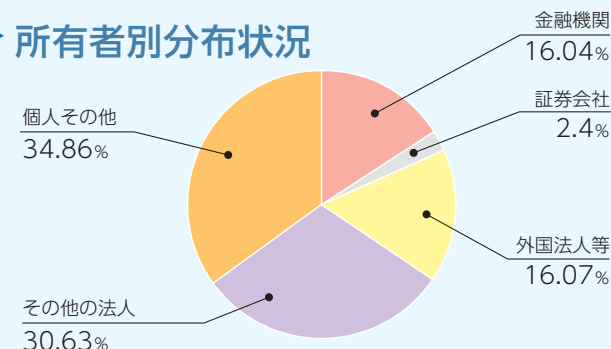
発行可能株式総数	86,284,000 株
発行済株式の総数	21,541,400 株
総株主の議決権の数	199,048 個
株主数	4,948 名

大株主

株主名	議決権数(個)	議決権比率(%)
株式会社小学館	35,122	17.64
アステラス製薬株式会社	10,777	5.41
キリンホールディングス株式会社	9,334	4.68
CAC社員持株会	7,481	3.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,760	3.39
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,956	2.99
株式会社三井住友銀行	4,840	2.43
ノーザン トラスト カンパニー エイブイエフシー リ フィデリティ ファンズ	4,718	2.37
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505041	3,423	1.71
メロン バンク トリーティアー クライアンツ オムニバス	3,361	1.68

(注)当社は、2014年6月30日現在、自己株式1,634,043株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

所有者別分布状況



※構成比は株式数の比率を示しております。

会社の概要 (2014年6月30日現在)

商号	株式会社CAC Holdings
英文社名	CAC Holdings Corporation
本社	東京都中央区日本橋箱崎町24番1号 TEL.03-6667-8001 (代表)
設立	1966年8月8日
資本金	37億204万円
従業員数	13名 (グループ従業員数4,724名)

役員 (2014年6月30日現在)

代表取締役会長	島田 俊夫
代表取締役社長	酒匂 明彦
取締役	高橋 久
取締役	チェン・ビン
取締役	メヘタ・マルコム
社外取締役	花田 光世
社外取締役	松島 茂
社外取締役	廣瀬 通孝
社外取締役	黒田 由貴子
常勤監査役	松村 晶信
常勤監査役	大須賀 正之
社外監査役	藤谷 護人
社外監査役	大澤 敏男